

## 研究開発課題概要書（終了課題）

### 1. 課題名（期間）

米国における建築ブリーフの位置づけと実運用に関する調査（平成16年）

### 2. 主担当者（所属グループ）

眞方山美穂（建築生産研究グループ）

### 3. 背景及び目的・必要性

ブリーフは、建設事業の初期段階において発注者や使用者の建築物への要求等を明示化し、文書化したものであり、当初の目的に合致した形でその後の建設プロセスを進めていくためには不可欠である。

現状、我が国の建築プロセスにおいては、ブリーフィングという概念が定着しておらず、建築の企画段階、設計段階、また設計・施工契約段階において、作るべき建築物のあり様が不明確なままの状態が進められていることが多い。また、これらの建築物に関する機能や性能等の要求を誰が、どのような責任関係の下で明示しているのか、また建築プロジェクトに関わる各主体間においてこれらの情報を伝達する方法には、さまざまな問題がある。

### 4. 研究開発の概要・範囲

欧米においては、一般的に発注者側が建築企画内容を詳細に記述するブリーフが作成され、それらに基づいて設計が行われ、工事のための仕様書が作成されている。現在、契約上の責任分担が厳格な欧米においては、この仕様書は商用の支援ソフトウェアを用いて作成されている。

本研究では、米国で用いられている商用の仕様書作成ソフトのシステムとしての機能を解析することにより、米国におけるブリーフ作成の手法を整理する。さらにブリーフの内容とマスター仕様書の各項目の分類体系との関係を検討し、実際にブリーフの記述が仕様情報に展開されるしくみを検討する。

### 5. 達成すべき目標

ブリーフ・仕様書作成支援システムの具体的な内容に関する資料の収集

ブリーフの内容とマスター仕様の分類体系との関係に関する資料の整理

### 6. 研究開発の成果

米国 BSD 社の PerSpective®の分析（PerSpective®の章の階層構造の分析、リンク機能の分析、仕様書作成支援システムとしての機能分析等）を通してブリーフ・仕様書作成支援システムの構成・機能について検討した。その結果、明らかになったことを以下に示す。

PerSpective®は、システム内にあらかじめ用意された文書を編集し、複数の章で構成されるブリーフ・仕様書を作成するデータベースのソフトウェアである。その章構成は、LV1～LV5となっており、LV2からLV4はUniformit™に準拠した章の階層構造であり、記述する階層を深めることで性能規定をより詳細化、具体化できるようになっている。

本システムでは、ある文書を選択するとリンク機能により関連文書の影響が自動的に及ぼされる。これにより、(1) 文章を最小単位とした文書管理や関連文章間のリンク機能により、大量の文章をミスなく効率良く編集することが可能、(2) 請負側の提案力に制限を加えずかつ包括的な性能規定の実現が可能となる。

PerSpective®が持つリンク機能により、部品についての記述が性能規定から仕様規定へ引き継がれる機能を発揮している。